



ごあいさつ

委員長 高橋 あゆみ

山形県PTA連合会母親委員会の活動にご理解ご協力いただきましてありがとうございます。また、各郡・市PTA母親委員会におかれましても活発に活動していただき感謝申し上げます。

今年度も母親委員会は【いのちの尊さ大切さ】のテーマのもと、子供たちの生きる力を育てていけるよう願いをこめ、人とのかかわりの大切さやかかわる喜びを実感しながら、学びの場になるよう活動してまいりました。各地区での活動をお互いに伝え合うことにより、より良い活発な活動に繋がればと情報交換も盛んに行いました。ミニ研修会では「母親委員会の成り立ちとこれからの在り方」について学び、県P連においての母親委員会の位置づけや、過去を知り未来へ繋いでいくには…を深く考える機会となりました。このお便りをご一読いただき、諸活動の情報を共有していただければ幸いです。

全国的には女性PTA会長の割合が増え、母親委員会という組織がない地域もあるとお聞きします。しかし山形県では多くの学校でお父さんがPTA会長を担ってくださっています。お父さん方が積極的に子供たちの育ちに参加してくださることはとても心強いことですが、一方でお母さん方の意見や想いを発信できる場はまだまだ少ない状況です。

母親委員会は「子供たちの一番身近な存在である“お母さんの想い”」をもとに、お母さんだから・女性だからこそ気づく問題点・課題を広く吸い上げ、集約し、発信していく貴重な場でもあります。これからも子育てにかかわるすべての方々と「子供たちのために何ができるか」を共に考え、手をたずさえながら、子供たちの育ちのためのより良い活動に繋がってまいります。

各地区の活動報告

《山形市》

- ◆テーマ「いのちの尊さ大切さ」
～かかわる喜び つなげる笑顔～
- ◆定例母親委員会3回（研修会・情報交換）5/9 6/20 2/17
- ◆拡大母親委員会1回（「いのちの大切さ学習会」共催）
研修：「子どもを犯罪から守るために～少年の非行及び被害の現状から～」
講師：小林智佳子 氏（県警察本部 生活安全部人身安全少年課 少年サポートセンター調査官）
- ◆親学 家庭教育視察研修（山形市立図書館・山形市立商業高等学校視察）
- ◆母親委員会だより「マザーズねっとわーく」No.29 発行

《天童・東村山地区》

- ◆母親委員会総会（中止）
- ◆母の集い（研修会）※地区P研修会と兼ねる

《上山市》

- ◆母親委員会1回
- ◆保護者研修会（上山市PTA連合協議会との共催）

《西村山》

- ◆母親委員会（3回）協議・研修
- ◆代表委員会（2回）企画運営
- ◆情報交換会

《東置賜地区》

- ◆地区PTA代表母親委員一名が県P連母親委員会に出席する
- ◆地区協議会において各市町の活動状況を報告

《米沢市》

- ◆母親委員会（活動報告等）
- ◆母親委員会（講演会・情報交換）
不登校についての講話

《最上地区》

- ◆地区母親委員会全員研修会1回（講演・演習）
- ◆代表母親委員会2回
- ◆母親委員会だより
「かあちゃんホットライン」発行

《北村山》

- ◆村山市P：委員会開催・読み聞かせ
- ◆尾花沢市P：委員会開催・おたより発行
- ◆大石田町P：母親交流会・おたより発行
- ◆東根市P：組織なし

《鶴岡市》

- ◆鶴岡市P連事務局会、常任委員会への参加（正副委員長のみ参加）
- ◆市P連の会議研修会、懇談会への参加



【 令和6年度 母親委員会 】



《西置賜地区》

- ◆長井市 母親委員会（年1回）
- ◆小国町 研修会の開催（年1回）
- ◆白鷹町 母親代表の会（年2回）
- ◆飯豊町 読み聞かせ活動
（町との共催の読み聞かせ活動もあり。）本紹介
母親委員会だより発行・リユース活動の推進

《東田川郡》

- ◆地区PTA代表母親委員一名が県P連母親委員会に出席する

《酒田飽海》

- ◆母親委員会（講演会）
- ◆母親委員会（情報交換会）
- ◆酒田飽海PTA研修大会協力

演題：精神科医が教えるコミュニケーションのコツ
 講師：医療法人 山容病院 院長 小林 和人 氏



日々の子育ての中で、子供とどのように向き合ったらいいのか…
 子供の将来の不安・悩み・いじめの心配を相談できる「思春期外来」。
 精神科は特別で敷居が高いと思っていましたが、心の具合が悪ければ受診する、一人で悩まないで相談することが大切だと思いました。

コミュニケーションを悪化させる9の罠

1. 先に言いすぎる
2. 言葉が多すぎる
3. 正しい事を言いすぎる (追いつめる)
4. 先に答えを出す
5. 相手の欠点ばかり見える
6. 先回りして考える
7. 感情的になる
8. 起きていない事を恐れる
9. 事実をきちんと見ていない

気持ちを伝えたいのに言葉がわからない
親子のやり取りが発達に大きく影響する

- ・ 子供は親子の会話や遊びからコミュニケーションを学ぶ
- ・ 言葉以外の表情やジェスチャーも大事
- ・ 親からの愛情やサポートを感じる事で安心感や信頼感が育つ

行動を制限、コントロール(怒る・監視・隠す・捨てる)
最も影響するのは家族

- ・ 怒りには怒りで対抗するのではなく、相手を避ける
- ・ 特定の人ばかりが悪ではなく、皆で変わらないといけない
- ・ 歯車を噛み合わせるようにして関係を再構築していく
- ・ “I message” 私を主語にして家族の思い(共感)を伝える

ゲームのコントロールができない、ゲーム障害
始めるより終える方が難しい

- ・ 真の問題はゲームへののめり込みではない
- ・ 様々な生きづらさを抱え、それらの問題から逃避する事が問題である
- ・ ゲームの世界が自分の居場所となり救われているような気分になる
- ・ 気分よく終われるように、約束づくりが大事

～～講演を聞いて～～

- ・ 子供に色々言う前に、自分の感情をコントロールする必要があった
- ・ 子供を幸せにできるよう親も学びが必要
- ・ 無条件に大切にされている、自分は大丈夫という自己肯定感を育てていきたい
- ・ ピンポイントで褒めることはできそう

酒田飽海P：佐藤 由佳

米沢市PTA連合会 母親委員会 研修会



令和7年1月22日(水)

講演：不登校やひきこもり支援について
 講師：白石 祥和 氏 (特定非営利活動法人 With 優 代表)



◇講演のねらい

毎日学校生活の中で友達との付き合い方で、いじめによる不登校やひきこもりになってしまった時にどのように家族は向き合うべきか、子供の居場所作りをどのように考えていくべきなのか講演会を開催し、学びの場を設けました。

◇講演内容

- ・ 不登校になった原因
- ・ ひきこもりになった原因
- ・ 親として子供とどう向き合うか
- ・ フリースクール

子供の不登校やひきこもりの原因は学校だけでなく家庭環境も原因のひとつ、子供がなったら無理やり学校へ行けば逆効果、子供が自ら一歩踏み出す事が大切
 同じ悩みをもった子供たちが集まるフリースクール体験

◇講演を聞いての感想

今回講演会に参加して、子供が不登校、ひきこもりになってしまったら親として子供にどう接したらいいのか分からなくなってしまうと思います。まずは原因を子供に聞き、子供が話たらしっかり聞いてあげ寄り添うことで子供に安心感が生まれ自分の居場所を確認できるのだと分かりました。

「なぜ学校へ行かない！」は逆効果。親として焦りはあると思いますが、まずは子供自身が「学校へ行ってみるか」「部屋から出てみるか」と一歩踏み出す勇気が大切。親はその一歩を踏み出した子供をほめてあげることが大切だと分かりました。

【記念講演】

「子どもに生きる力をつけるためにできること
～子育ての大切な2つの目標とは～」

講師：工藤 勇一（くどう ゆういち）氏



工藤氏は鶴岡市出身。千代田区立麹町中学校校長時代、宿題や固定担任制の廃止など、今までの「当たり前」を見直す大胆な学校改革で注目を集め、現在でも教育界のトップランナーとして注目されている。

荘銀タクト鶴岡にて、「育てよう 未来を生き抜く 子どもたち～家庭・学校・地域で育む『夢』と『自律』～」の大会主題のもと、第76回山形県PTA研修大会鶴岡・東田川大会が開催されました。私たち県P連会母親委員会では、この大会を視察研修活動の一環として、参加しました。

◆子どもたちに生きる力をつけるために子育てに大切なことは何でしょうか？
→どう手をかけるかではなく、どう手を離していくか、自分の力でどう生きていくか。

★脳科学の視点

- ①心理的安定性＝心が安定していること
ストレスが過剰になると脳が機能を停止してしまう
- ②環境に強い脳を作ること
自己決定することが自己肯定感を高める

★自己決定を促す3つの言葉

- 疑問形にして、自分で選択させる
- ①どうしたの？
- ②君はどうしたいの？
- ③何を支援してほしいの？

…感想…

～子育てとは、どう手をかけるかではなくどう手を離すか～

今まで子供が悩まないように、つらい思いをしないように先回りしてあれこれ手を出したり、口を出してきた私は放任ではない、手の離し方がわかっていなかったのだと思いました。

少人数の生徒の方が先生から目をかけてもらえるし、手をかけてもらえると思っていました。

～生まれたときから持っている「主体性」をいかに育てていくか～

これから過ごしていく日々の中で、何かあったとき子供に指示するのではなく、どうしたいのか、どうしてほしいのか、子供が答えを出して行く過程に口を出さず見守っていきたくと思いました。

最初から何かをやってあげるのではなく、子供が出した答えを応援したり、必要なら手をかしたり…その決断がもし失敗してもフォローできるように私自身も在り方を変えていきたいと思えます。とても勉強になりました。ありがとうございました。

東田川郡P：風間 慶子

西置賜地区P：高橋 ゆみ



第76回山形県PTA研修大会 鶴岡・東田川大会の参加と
開催地区母親委員との交流会

令和6年10月19日(土)山形県PTA研修大会の後13:15～“Blackbird Market”にて県P連母親委員会と鶴岡市P・東田川郡Pの母親委員、県P連会長を交えての交流会が和やかに行われました。参加者は9名でした。

私自身は他地区の母親委員の皆様とお話したことがなく、お会いすることも初めてだったので最初は何を話したらいいのだろうと不安でしたが、そこは女性同士！美味しいランチを食べながらのおしゃべりは話題も尽きることなくあっという間で時間が足りないほどでした。

子供をより近くで見ている細やかなことに気づける母親の良さ、反面全体を俯瞰しすぐに行動できる父親の良さ、この双方の視点が必要だからまだまだ男性割合の高いPTA組織の中では母親委員の存在に意義があるということ、制服や体操服などのリユース活動、ベルマーク活動、管轄省庁による「子ども」と「子供」の表記の違い、読み聞かせ活動など話題は多岐にわたりました。地区ごとの活動の違いなども新しい刺激となりこれからの活動意欲向上につながる時間となりました。

鶴岡市P：高田 美佳

母親委員会の成り立ちと これからの在り方 Part 2

講師：佐藤 静子氏（歴代母親委員長）

令和6年9月14日（土）



昨年引き続き、母親委員会の成り立ちや存在意義について、県P連事務局員（歴代母親委員長）の佐藤静子さんをお招きし、ミニ研修会を開きました。母親委員会の始まりは、今から50年ほど前にさかのぼるそうです。その後、30年足らずで休止状態になり、平成25年度に公益社団法人化に伴い廃止となったそうです。

山形県PTA連合会母親委員会としては、一人でも多くの母親の意見を県P連に届けるため、活動が続いておりますが、今後の展望については、

1. 母親委員会を現状のまま活性化させる
 2. 活動内容に合った委員会名にする
 3. 常置委員会から特別委員会への降格か、組織を無くすか
- 以上の3点を挙げられました。

一人一人が自分事として、じっくり考える時期に来ているのだと感じました。
最上地区P：伊藤 雪枝

昭和47年の日Pで母親委員会が誕生し、現在までの活動状況を詳しく教えて頂きました。

平成25年の日Pで廃止になりましたが、山形県では母親の思いや考えを発信していく為の必要な場として、今後も活動を続けていければと思います。

天童・東村山地区P：秋場 守美

私が所属する単位PTAでは、小学校、中学校とも今年度から母親委員の選出が廃止になり、父親である私が母親委員会に携わることとなりました。このような中、今回この研修を受講し、母親委員の意義・役割について改めて考える機会をいただきました。

研修では、母親委員会はその発足から活動のテーマとして、女性の社会参加、女性リーダーの育成、家庭教育の在り方、命の尊さ大切さを例とするように、その時代その瞬間の社会情勢の動向に応じ、歴史的な必要性に向き合って活動を展開してきたことを改めて認識しました。これを踏まえて母親委員会の展望を考えると、現在においてはその歴史的な必要性が多様性への理解の急速な広まりと相反するかのように薄れゆき、母親委員の立場と母親委員会の組織に大きな変化をもたらしたかのように思えます。多様性への理解がさらに進展すれば、父親と母親を分け隔てる考え自体が不要になっていくのかもしれませんが、その理解はまだ感覚的なもので浸透しているとは言えないのではないのでしょうか。このPTAにおいても、組織の意思決定の場に母親の姿がないために、母親たちの声なき声が届いていない状況が垣間見え、そこにはやはり母親たちの代表として母親委員会の意義・役割があると考えます。私自身、PTA会員の一人として今できることを考えながら今後も携わってまいりたいと思います。
北村山地区P：佐藤 政史

～令和6年度県P連教育懇談会 に参加しました～

令和6年11月19日（火）

「山形のこれからの教育」のテーマのもと、グループごとの意見交換に参加しました。私は、Cグループで「〈尊重〉みんな主役で応援団」のmyチャレンジについて、米沢地区・西村山地区・教育委員会の方4名で考え話し合いました。

子供たちがやりたいと思うことをやらせてあげたいと思う意見に共感を持ちました。西村山地区では、企業からの寄付を利用して子供たちが自分たちで考え、話し合い、やりたい事を実践していることとお聞きし、今回のmyチャレンジ体験・探究・尊重・協働をすべて行っていることに驚かされました。

自分たち大人もアップデートしながら、今よりももっと子供たちにできることを考えていこうと思います。

東置賜地区P：松岡 希衣子

第7次山形県教育振興計画（素案）の概要をお聞きしたのち、グループごとに意見交換を行いました。難しい内容かと思いましたが、これまで親として子供と接してきたことや大切にしてきたことが言語化や可視化されたような気がしました。意見交換では他の地域の方や父親・母親の視点の違いなどもあり、大変貴重な経験となりました。

上市市P：高橋 千鶴



西村山
PTA連合会
母親委員会
情報交換会

令和6年8月30日（金）



各小・中学校の活動の現状について話し合いました。小・中学校ごとに5人程度のグループに分かれ、母親委員会が作成したお便りなどを持ち寄り、話のきっかけとして活用しました。活動内容としては、講師を招いた研修会や、本の読み聞かせ、リユース活動などが紹介されました。参加者からは「他の学校の取り組みが知れて良かった」「学校ごとに活動がこんなにも違うことに驚いた」「自分の学校の活動を見直したい」といった感想が寄せられました。

また、お茶とお菓子を楽しみながら、和やかな雰囲気では話が弾みました。中には、悩みを共有し、一緒に解決策を考える場面も見受けられました。今回の情報交換会は、様々な意見を共有して、子供たちの育ちのための活動につながる貴重な機会になったと思います。お集りいただいた西村山地区の母親委員会の皆さまに感謝申し上げます。
西村山P：伊藤 洋子

あとがき

県P連母親委員会に参加して、他地域の活動を聞き、子供たちのために皆さん一生懸命に活動していると実感しました。親の立場の悩みも共有し、充実した1年でした。時代が変わり、様々な価値観を共有する多様性社会。親の私たちは子供が幸せに生きてほしいと願っています。
酒田飽海P：佐藤 由佳

編集委員

山形市：高橋 あゆみ
酒田飽海：佐藤 由佳
上市市：高橋 千鶴
西村山：伊藤 洋子
北村山：佐藤 政史

